

中国ムスリム研究会編

『中国のムスリムを知るための60章』

(エリア・スタディーズ 106)

明石書店 二〇一二年・八刊

四六 三八八頁 二〇〇〇円

本書は本邦初と言ってもよい中国ムスリムに関する総合的な概説書である。編集と執筆の中心となった中国ムスリム研究会（二〇〇一年成立）によれば、中国ムスリムとは、中華人民共和国内でイスラームを信仰する少数民族とその前身となる集団を指す。また彼らを起源として現在に移住して中央アジアや東南アジアなどで暮らしている人々も含まれる。歴史学や人類学をはじめとする各分野の専門家が最新の研究に基づいて執筆する本書は、中国ムスリムの歴史や現状について正しい知識を分かりやすく提供してくれる。また中国ムスリムを通じて、中国の歴代政権のありかたやイスラームの多様性についても理解を深めることができる。

本書の全六〇章は七部構成をとっており、以下で各部の内容を紹介する。

まず第一部「少数民族としての中国ムスリム」（全七章）で該当する中国国内少数民族の歴史と現況が紹介される。人口が多く影響力のある回族（漢語を話すムスリム）やウイグル族だけではなく、他のテュルク系（クルグズ族、カザフ族）やモンゴル系（東郷族、保安族）の集団も扱われ、総人口二二〇〇万人を越える中国ムスリム

が持つ多様性が示される。

第二部「ことばと文化」（全六章）は回族とウイグル族の言語と芸術活動を扱う。第三部「都市・農村のくらし」（全九章）は人生儀礼や食文化をはじめとした日常生活をいきいきと描く。都市生活以外にも、農村や遊牧民の生活も扱い、さらに漢族でイスラームを信仰する者などにも言及している。第四部「イスラームを生きる人々」（全八章）は信仰生活を扱い、イスラーム教育や年中行事、民間信仰について紹介する。清真寺やシャーマニズムの影響などからはイスラームの多様性について知ることができる。

第五部「中国史のなかのムスリム」（全五章）は唐代から二〇世紀半ばまでの中国ムスリムの歴史を注目すべき主題に分けて概説する。内容は中国イスラーム思想の展開や反乱の歴史、近代における民族意識の成立、日本の回教工作など多岐に渡る。

第六部「国家・社会・イスラーム」（全八章）は中華人民共和国の下での民族政策、宗教政策を扱う。改革開放による経済発展や民族文化の興隆の一方で、いくつかの課題も存在する中国社会の現状を冷静に紹介する。

さらに第七部「移動とネットワーク」（全七章）で中国内のムスリムのネットワークや東南アジアや中央アジアの中国ムスリム社会、中東との関係などを扱うことで、国家としての中国の枠を超える研究範囲の広さが示される。

本書は他に七本のコラムを含んでおり、回族の武術など興味深い話がつづられている。

中国ムスリムという概念が様々な集団を含むものであるため、

本書もその全てについて詳しく紹介することはできず、構成もやや複雑なものになっている。しかし最新の研究成果に基づき中国ムスリムという存在を紹介した意義は大きく、多くの研究者に新たな知識や視点を提供するであろう。

(上出徳太郎)